



ハイライトよねやま 204

2017年3月13日発行
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会

寄付金速報 — やや回復傾向に—

2月までの寄付金は、前年同期と比べて5.2%減（普通寄付金1.1%増、特別寄付金8.6%減）、約6千万円の減少となりました。7月からの累計金額は直近5年間のほぼ平均額ですが、2月単月では3カ月ぶりに対前年同月比がプラスとなりました。多くのロータリアン、学友の皆さまからのご支援に心から厚く御礼申し上げます。今年度も残り3カ月半となりました。年度末に向けて、さらなるご協力賜りますよう、よろしくお願いたします。

ミャンマーに9番目の海外米山学友会が誕生！

ミャンマー出身の学友・奨学生 22人が2月25日、ヤンゴン市内に集まり、海外9番目の米山学友会となるミャンマー米山学友会の設立総会が開催されました。初代会長に就任したタンシンナインさん（2003-05／東京調布RC）は東京米山ロータリーEクラブ 2750の会員であり、同学友会の創立を心待ちにしていた第2750地区会員をはじめ、学友の世話クラブ会員、当会から小沢一彦理事長と岩邊事務局長など、日本から多数のゲストが出席。また、2014年に旭日小綬賞を受章したミャンマー初の米山奨学生、アウン・チョウさん（1962-66／東京北RC・東京南RC）も家族とともに参加し、総勢約60人が設立を祝いました。地道に学友を探して学友会設立への準備を重ねてきたタンシンナインさんは、「今後は、日本語を学ぶ学生への奨学金支給や貧しい小中学校への支援なども行いたい」と、抱負を語りました。



マレーシア米山学友会が設立記念パーティーを開催

昨年9月に設立されたマレーシア米山学友会の設立記念パーティーが2月18日、ペナンで開催されました。マレーシア出身の奨学生・学友 20人のほか、初代会長となった黄麗容さん（2001-04／横浜泉RC）の出身である第2590地区の米山記念奨学委員会メンバーをはじめ、第2780地区・第2660地区・第2550地区のロータリアン、関西・台湾・タイの各米山学友会の会長や会員、家族など多数が参加。また、地元のジョージタウンRC、ペナンRCの会員も祝福にかけつけ、総勢113人の盛会となりました。パーティーでは、学友会の立ち上げから参画している現役奨学生、チュアー、チーシェンさん（真岡RC）の司会のもと、黄会長から設立に至るまでの経緯や感謝が述べられ、在ペナン日本国総領事や当会の小沢理事長から、学友会への期待を込めた祝辞が贈られました。



余興の民族舞踊にゲストも参加するなど、終始楽しいムードで盛り上がり、日本からの参加者の一人は、「あらためて米山奨学事業に加わることができることへ感謝の思いが湧き、ロータリアンであることをうれしく感じました」と、感想を述べてくださいました。

学友が「若者力大賞」を受賞！

社会のために情熱を持って活動に取り組む若者とその支援者を表彰する「若者力大賞」（主催：公益財団法人日本ユースリーダー協会）の授賞式が2月21日に開かれ、米山学友のジギャン・クマル・タパさん（2008-09／横浜たまRC）が第8回若者力大賞を受賞しました。外国人の受賞は今回が初とあり、当日は駐日ネパール大使のほか、在日ネパール人協会関係者、ネパールの報道関係者も多数駆けつけました。

タパさんは現在、かながわ国際交流財団職員および駐日ネパール大使公式通訳者として活躍していますが、地域への政策提言のほか、日本の学生が海外への理解を深める講演活動、また、ネパール大地震や熊本地震など被災地における継続的支援といった、幅広い活動と行動力が評価され、69組のエントリーの中から見事大賞に輝きました。



大賞を受賞したタパさん(前列左から3人目)

ただいま！久しぶりの世話クラブ訪問

董際国さん（中国／1998-99）は今年1月、約20年ぶりに世話クラブの山形中央RCを訪問し、新年会に参加して会員との交流や餅つきを楽しんだほか、博士号取得の記念品を受け取りました。「多くのロータリアンの方が私を見て“思い出した！”とニコニコし、里帰りしたような温かい記憶が蘇りました。（博士号取得記念の）腕時計は私の一生の宝で、誇りです」と語り、今度は家族での再訪を約束しました。

剣道の中国代表選手となった楊敢峰さん（中国／2004-05）は2月10日、教え子である蘇州大学の学生3人とともに来日し、水戸南RCを訪問。カウンセラーの奥様の墓参りをしたほか、例会で自身の近況を報告し、学生が中国武術や太極拳を披露しました。「知っている会員は少なくなったが、中国へ帰国後の自分の活動をみなさんに報告できてホッとしました。今もこれからも米山奨学金に感謝しています」と、語りました。

また、関美玲さん（中国／2003-04）も2月17日に上海から東京武蔵府中RCを訪れ、会員に近況を報告。「緊張して頭が真っ白になり、何をご挨拶したか覚えていないくらいですが、米山奨学金のおかげで実験や論文作成に集中できた当時は昨日のこのように脳裏に浮かび、本当に感動しました」と、述べました。

南米ホンジュラスからはるばる来日したエドナ・スヤパ・メヒア・ガルダメスさん（2006-07）は帰国以来10年ぶりに来日し、世話クラブの東広島RCの例会を1月に訪問。同クラブでは今後、母国で日本語を教える幼稚園・小学校を設立したエドナさんとの交流を深め、活動を応援していきたいと考えているそうです。

